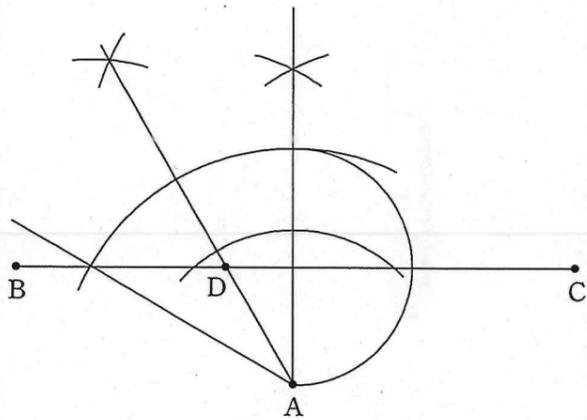


正 答 表

1		点
[問 1]	$-5+10\sqrt{6}$	6
[問 2]	$a=0, b=7, c=4$	6
[問 3]	$\frac{7}{15}$	6
[問 4]		7



2		点
[問 1]	$-72 \leq y \leq -18$	7
[問 2]	$1 \pm \sqrt{5}$	7
[問 3]	【途中の式や計算など】	11

2点 A, B を通る直線の式を $y=ax+b$ とする。

2点 A(4, 4), B(-1, -2) を通るから、

$$\begin{cases} 4a+b=4 \\ -a+b=-2 \end{cases}$$

これを解いて、 $a=\frac{6}{5}, b=-\frac{4}{5}$

よって、2点 A, B を通る直線の式は、

$$y=\frac{6}{5}x-\frac{4}{5}$$

この直線と x 軸との交点が点 C であるから、

$$y=0 \text{ より, } x=\frac{2}{3}$$

よって、点 C の座標は、 $C(\frac{2}{3}, 0)$

直線 l の傾きを $m(m<0)$ とし、直線 l の式を

$y=mx+n$ とすると、点 D の座標は、

D(0, n) である。

四角形 OCAD の面積を S とすると、

$$\begin{aligned} S &= \triangle OCA + \triangle OAD \\ &= \frac{1}{2} \times \frac{2}{3} \times 4 + \frac{1}{2} \times n \times 4 = 2n + \frac{4}{3} \end{aligned}$$

$S=20 \text{ cm}^2$ であるから、

$$2n + \frac{4}{3} = 20 \text{ より, } n = \frac{28}{3}$$

よって、直線 l の式は、 $y=mx + \frac{28}{3}$

点 A(4, 4) を通るから、

$$4 = m \times 4 + \frac{28}{3} \text{ より, } m = -\frac{4}{3}$$

($m<0$ を満たす。)

したがって、直線 l の式は、 $y = -\frac{4}{3}x + \frac{28}{3}$

(答え) $y = -\frac{4}{3}x + \frac{28}{3}$

3		点
[問 1]	84 度	7
[問 2]	【証明】	11

$\triangle APQ$ と $\triangle CPQ$ において、
共通な辺であるから、

$$PQ = PQ \text{ …… ①}$$

直線 AQ, 直線 CQ は、それぞれ 3 点 A, B, C を通る円の点 A, 点 C における接線であるから、

$$AQ = CQ \text{ …… ②}$$

点 A と点 C を結ぶ。

$\angle CBP$ と $\angle CAP$ は、ともに \widehat{CP} の円周角であるから、

$$\angle CBP = \angle CAP$$

$\angle ABP$ と $\angle ACP$ は、ともに \widehat{AP} の円周角であるから、

$$\angle ABP = \angle ACP$$

直線 BP は $\angle ABC$ の二等分線であるから、

$$\angle CBP = \angle ABP$$

したがって、 $\angle CAP = \angle ACP$ より、

$\triangle PAC$ は二等辺三角形である。

よって、

$$AP = CP \text{ …… ③}$$

①, ②, ③ より、3 組の辺がそれぞれ等しいから、

$$\triangle APQ \cong \triangle CPQ$$

[問 3]	$\frac{2}{3}\pi - \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ cm}^2$	7
-------	--	---

小計 1	小計 2	小計 3	小計 4
25	25	25	25

(7-立)

4		点
[問 1]	$\frac{27}{2} \text{ cm}^2$	7
[問 2]	【途中の式や計算など】	11

$\triangle CGQ$ において、 $\angle CGQ=90^\circ$ であるから、
三平方の定理より、

$$CQ^2 = CG^2 + GQ^2$$

$CG=6$ より、

$$CQ^2 = 6^2 + GQ^2 \text{ …… ①}$$

よって、線分 GQ の長さが最も小さくなるとき、
線分 CQ の長さは最も小さくなる。

線分 GQ の長さは、点 Q が、頂点 G を通り
線分 FP に垂直な直線と線分 FP との交点に

一致するとき最も小さくなる。

$\triangle EFP$ と $\triangle QPG$ において、

$$\angle EFP = \angle QPG$$

$$\angle FEP = \angle PQG = 90^\circ$$

よって、2 組の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle EFP \sim \triangle QPG$$

ゆえに、 $PE : GQ = PF : GP$ であるから、

$$4 : GQ = 5 : 3$$

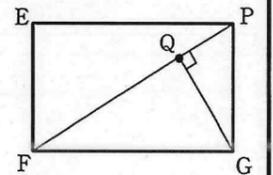
よって、 $GQ = \frac{12}{5} \text{ (cm)}$

したがって、① より、

$$CQ^2 = 6^2 + \left(\frac{12}{5}\right)^2 = \frac{6^2 \times 29}{5^2}$$

よって、 $CQ > 0$ より、

$$CQ = \frac{6\sqrt{29}}{5} \text{ cm}$$



(答え) $\frac{6\sqrt{29}}{5} \text{ cm}$

[問 3]	$\frac{35}{3}t \text{ cm}^3$	7
-------	------------------------------	---

合 計 得 点
100